いいこっつぉ

教育長のつぶやき
No.１６
２０２５，４／２５

視点を変えられるかな？

一昨日、小中学校で先生方の研修として「まなびデザインラボ」が開催されました。４月からすでに３回目になり、一回目は共通認識を創ってもらうため私から話をさせていただきました。小中学校が一つの校舎になり、この一か月で先生方のコミュニケーションもだいぶ良くなり一つの学校という印象がかなりできてきました。今回は、自由進度デザイン、ふるさとデザイン、カラ・コモデザイン、行事ルールデザイン、健康安全デザインというチームに分かれ、チームリーダーとチームテーマの決めだしを行っていただきました。

先生方からは大分学校改革を進めようとしている発言が多く聞かれ、こんな感じに進めたい、今の子どもはこのような状態だからこんな力をつけていくようなテーマがいい等、目の前の子どもたちに沿った具体的なテーマ案が出されましたし、今までの研究テーマとはちょっと違う言葉のチョイスを意識している気がして嬉しくなりました。

自由進度学習（教科学習）のラボでは、自ら学ぶための手だてをより多く子どもたちに身に着けてもらいたい、自分の学びをデザインできる力を自らつけてもらいたいという願いが出されました。そうした願いと共に、「自学共育」という柱も忘れずに、そこでいうところの主体性と協働性という以前 T 教頭先生が提案してくださった言葉に関係する発言もありました。先生方が目の前のテーマだけではなく、一番根本になる柱や、そこからテーマにつなげる過程での言葉にも目を向けていることも大変頼もしく感じました。

「ふるさとラボ」では**「ふるさとの魅力発見・発信」**というテーマを掲げてもらいました。これも今までにないテーマで先生方の意気込みと意識の変化を感じました。次に訪問した「自由進度ラボ」では、自学の部分の“自ら学ぶ”ところを特に大切に扱いたいという願いが多く語られました。How To に流されるという感覚ではなく、多くの学び方を習得してあることにより、その場に応じた多様な学び方を自分でチョイスし、自ら学べる姿になっていくという道筋の説明が多くありました。

私からは例えば**「自分で楽しく勉強できるもん！」**というテーマはどうか？という提案をさせてもらいました。今までの研究はどうも先生側からの目線で、子どもをこうしてやろうとか、こう育てたいとか引き上げようとする狙いやテーマが中心だったような気がしたからです。子どもにもわかり、子どもに還せる（問える）テーマであれば子どもと共に先生方も歩めるはずです。先生だけでなく、子どもがこうなりたい、ああなりたい、こうしたいという願いをもつように教師がファシリテーター役になるのであれば、子どもと一緒にその願いに向かって努力するほうがより子どもに近い研究になりますし、子どもたちもそれを繰り返し意識させてもらうことで自分の学び方や自分自身の学びにつながるとイメージしたからです。だからこそ子ども目線で、子どもが主語の研究テーマの方がより子どもにリアルに繋がっていくのではないかということも話させてもらいました。

今までとは違った学び、違った学校をどんどん推し進めていくために子どもを中心に据えた学校改革をうたってここまで来ていますし、今後もその方向には変わりありません。

研究も急に大人目線でなく、子ども目線で子どもの言葉で教師も子どもも一緒に創り上げていく研究の方がより素敵な学校になるような気がしています。そこまで徹底した学校は余り国内でも例を見ないでしょうから楽しみでもあります。子どもがどこまで関われるのかという視点でも面白い学校改革につながります。小中９年間という年齢の幅はあり難しい作業ではありますが、今後はそうしたことにもどんどんと口をはさみ、言葉を発せられる子どもたちに育ってほしいと願うので、ここは重要な部分なのかもしれません。